

くすのき



岡本小学校 学校だより
No. 6
令和2年7月22日
『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

目標に向かってがんばれる子

岡本小学校が、いつまでも
楽しくやさしい学校であり
ますように(二年生)

コロナがおさまって、
コロナウィルスに対応す
る薬がはやくできます
ように(四年生)

みんなが笑顔になって
世界中が幸せになりま
すように(六年生)

七夕飾りに、こんな願い事が書かれてありました。
まさにコロナ禍の時代を反映しています。

そして、1年生の短冊の中に、なんともほほえまし
い願い事を見つけました。

「ママにほめてもらえますように」
この子はきっと、ほめ上手なお母さんが大好きなの
でしょう。

7月のある日、4年生が「1学期の目標」を立てる
授業を行っていました。一斉登校が始まって一か月
あまり。新しい学年の生活や友達、担任の先生にも
少しずつ慣れ、自分の目標がやっと見えてきたころ
です。本来であれば、こうした授業は4~5月ころに
行われるはずでした。

「将来、あなたはどんな人になりたいですか？」
なんとなく目標を考えるのではなく、将来の自分の
姿を想像することで、できるだけ目標に具体性をも
たせようと、目標の立て方を指導していました。

ある調査によると、
「どんな人になりたいですか？」
という問いに対して、約半数の子どもたちが
「たくさんの友だちや仲間がいる人になりたい」と
回答していました。子どもたちも、多くの人との関
わりを求めていることがわかります。



どの学級にもクラス目標(または個人目標)
が掲示されています。この目標がただの掲示物
になることなく、「目標に向かってねばりつよく

取り組む子」(今年度の岡本小学校の学校教育目標
の一つ)の育成につながることを期待していま
す。

では一体、目標にむかってがんばれる子は、
どのようにして育つのでしょうか。

7月4日に行われた第1回めの学校運営連携
協議会の中でも意見が交流されました。委員さ
んのお一人が、こんな発言をされました。

「レジリエンス(立ち直る力)を高めるために
は、感謝の気持ちを育むことが大切である」
と…。

パラリンピック出場をめざすある陸上選手の
実話を紹介します。

この選手は、コロナ禍の自粛生活が続き、練
習場所がなくなり記録も伸びず、挫折感を抱き
目標を見失ってしまいました。その姿を見たコー
チが、

「一人で悩むな。一緒に戦おう。」
と励ましてくださったそうです。どん底から立
ち上がったのは、この言葉、このコーチのおか
げだと振り返っています。

「人に支えられて今の自分がある」
と、話されていました。

つまり、人に対する「感謝」の気持ちは、「立
ち直る」ための原動力となるということです。

子どもは、「ママにほめてもらいたい」からが
んばるのではなく、「ほめてくれるママのため
に」がんばれるのです。自分を支えてくれる人
の顔を思い浮かべることで力が湧き、がんばっ
てみようと思えるのでしょう。

子どもが落ち込んでいるとき、困っているとき、
目標を見失っているとき、近くにいる大人は
どんな言葉をかけられるか、どんな行動をと
ることができるか…子どもたちの目標達成に向
け、今後の教師や親の子どもへのかかわり方が
試されそうです。

第1回学校運営連携協議会報告

例年は、学校公開日と同日開催としていま
しが、コロナの影響で学校公開が中止となり、協議会
のみを行うこととなりました。今回は1年生と6年生、
くすのき学級を中心に、子どもたちの様子を参観し
ていただきました。協議会では、下記のように肯定的
な感想が寄せられました。

- どの学年も集中して授業に臨んでいた。
- トイレ・水道場の表示がわかりやすい。
- 教科書等の保管方法や学級文庫の整理がよい。
- PCやプロジェクターの活用状況がよい。

地区別下校班集合訓練

今年度初めての地区別下校班編制を行いました。6年生が、自分の下校班の1年生を教室までお迎えに行き、廊下に静かに並ばせ、声をかけながら集合場所へ誘導しました。6年生にとっては、記念すべき、お世話活動開始の日です。1学年を優しくリードする頼もしい姿が、あちらこちらで見られました。おかげで迷子もなく、全員が集合場所に集まり、近所に住む友達同士の顔合わせをすることができました。

また、7月22日には、教職員も通学路の安全点検をし、道路の渡り方、通学路の危険な場所などを実地指導します。自分の命を自分で守る判断力を身につけさせると同時に、雨の日も暑い日も、毎日欠かさず子どもたちの安全を見守ってくださる OKAMOTO 安全サポート隊や交通整理員の方々の存在にも気づかせたいと思います。私たちの命を多くの方々が見守ってくださっていることに感謝し、挨拶がしっかりとできるように、指導を続けます。



メダカの授業

5年生が、外部講師 富川孝治先生による『メダカの授業』を行いました。

黒メダカの卵を顕微鏡で観察し、心臓の動きや血液の流れを、自分の目で確かめました。

こんなに小さいのに、これほどまでにたくましい鼓動があることに、驚きと命の敬虔さを感じていました。



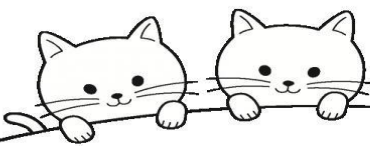
おやじの会

おやじの会の活動が始まりました。7月11・12日両日にわたり、側溝の泥上げ、草木の剪定、除草作業をしていただきました。今年は休校期間が長く、おまけに雨続きで、なかなか外の作業まで手が回らず、苦戦していたところです。

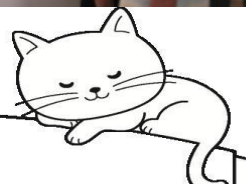
おやじの会会長生沼さんからは、「子どもたちが安全に生活できるよう、私たちにできることは何でもお手伝いしますよ」と、力強い言葉をいただきました。

初めての習字

3年生にとって、初めての毛筆の授業が始まりました。指導者は、習字の先生 渡邊厚子さんです。1年間、毛筆の基礎基本を丁寧に教えてくださいます。回数を重ねるごとに上達する様子が見られます。今年度も楽しみです。



わたしのひとりごと…



「今日のカレー、すごくおいしかったよ」
「かぼちゃがホクホクで、チョーおいしかった」
「なすが嫌いだけれど、食べられた」
先日、七月十五日は、夏野菜カレーの日でした。「神奈川県産給食デー」の取組として、栄養士さんが地元産の野菜を取り入れて献立をたててくださいました。
今回、使用した野菜（玉ねぎ・かぼちゃ）は千津島の瀬戸善さんという農家から、仕入れたものです。「ロロン」という品種のカボチャは、ほくほく感が特徴だそうです。
（HPに写真掲載中）
「おいしいものを食べさせたい」「地域の安全な野菜を食べさせたい」という栄養士さんの「あたたかき」が伝わります。子どもたちも、作った人の顔が見えることで、よりおいしく感じられ、食べられなかったものも食べられるようになるのです。これぞ、給食の醍醐味です。
年齢が上がるにつれ、親の出番は少しずつ減っていきます。でも、いくつになろうが、子どものためにし続けたいことがあります。
それは、
『あたたかい言葉』をかけること
『あたたかい寝床』を準備すること
『あたたかい食事』を用意すること
たとえ、それがコンビニ弁当であっても、レンジで温めお皿に盛り付けて、「今日は手作りじゃなくてごめんね」と、心のあたたかさをそえることで、子どもの心は癒されるのではないのでしょうか。
いつも帰りが遅くなる我が家の母親（私）は、毎日手抜きをしながら、でも時々帰ってくる子どもたちに「あたたかき」を届けられるような心がけています。
子どもにとって、家庭が心の基地となりますように…。